

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和3年7月28日～29日に令和3年度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（令和3年8月～12月の見通し）が発表されましたので、その結果を基に本県海域での予報を報告します。

■ 海況

黒潮：A型基調で推移し、主に伊豆諸島海域の西側を北上する。

（説明）2017年8月に大蛇行になり、4年が経過しましたが、大蛇行は継続する見通しです。

沿岸水温：相模湾及び伊豆諸島北部海域は「平年並み」から「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度
 高め：平年値+1.5℃程度
 極めて高め：平年値+2.0℃程度

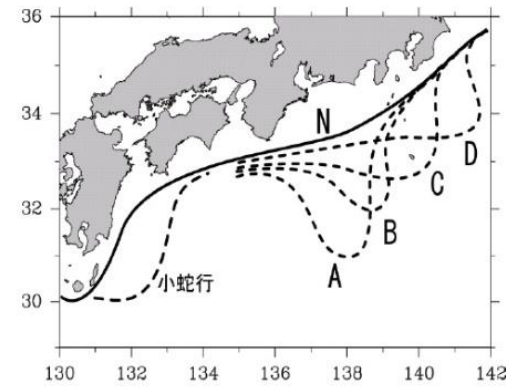


図1 黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ）

来遊量：不漁であった前年を上回る。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量は、2000年代以降増加していますが、神奈川県沿岸の定置網や一本釣りでの漁獲量は、資源量の増加に反して、ここ数年減少しています。

これまでの研究から、東京湾～相模湾におけるマサバ漁獲量は、①当年6月の伊豆大島周辺の塩分、②当年5月の三崎周辺の定置網のマサバ漁獲量、③当年8月の東京湾の水温と関係があると考えられています。今年得られたデータ①②に基づき、今期の来遊量を予測したところ、前年を上回ると見込まれました。

魚体サイズは、1～5月に県漁業調査指導船「江の島丸」が伊豆諸島周辺で行った調査では尾叉長30～34cm（体重300～470g）主体に漁獲されたことから、今期は引き続きこのサイズが主体となるでしょう。



■ マイワシ

来遊量：低水準であった前年並。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は、2010年以降増加しており、太平洋側各地で漁獲量が増加傾向にあります。

本県沿岸域では、4～6月にかけて小～中羽サイズ（0歳魚）を主体に来遊がみられ、平年（過去5年平均）の2.2倍の漁獲がありました。

2021年8月～12月は、近年の傾向からひきつづき小～中羽サイズの0歳魚が漁獲の主体となるでしょう。下半期の本県沿岸域の0歳魚の漁獲量は、相模湾の春シラス漁におけるマシラス漁獲量と正の関係が認められています。今年春季のマシラス漁獲量は前年同様低水準であったことから、今漁期の漁獲量は低水準であった前年並と考えられます。



■ カタクチイワシ

来遊量：前年並か前年を上回る

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004年以降減少しており、特に黒潮親潮移行域等、沖合域の分布量の減少が顕著になっています。魚体サイズの傾向も高水準期を支えた大型成魚（体長12cm以上）の来遊が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

2021年8月～12月は、近年の傾向から体長7～9cmの未成魚を主体に、10cm以上の成魚も混じって漁獲されるでしょう。4～6月に本県沿岸で実施した卵稚仔調査では、本種の卵が平年並みか平年を上回るレベルで採集されており、今後これらが成長して未成魚として来遊することが期待されます。前年の漁獲量は平年並みであったことから、今漁期の漁獲量は前年並か前年を上回ると考えられます。



■ マアジ

来遊量：前年並。

（説明）東シナ海を発生起源とするマアジ太平洋系群の資源量は低位・減少傾向であり、南方海域からの相模湾への来遊による漁獲量の増加は期待出来ません。

今年は上半期のマアジ総漁獲量が前年を上回り、0歳魚（銘柄ジンド）の漁獲量は0.2t弱でした。0歳魚の漁獲量から、2021年8月～12月のマアジ漁獲量は前年並になると考えられます。

